

令和7年度

(2025年度)

〔令和7年4月1日から〕
〔令和8年3月31日まで〕

事業報告書

(大阪薫英女学院高等学校・中学校関係抜粋)



学校法人 薫英学園

事業報告書

令和7年度（2025年度）事業報告
（令和7年4月1日から令和8年3月31日まで）

I 法人の概要

（1）基本情報

- ① 法人の名称 学校法人 薫英学園
- ② 主たる事務所
住所 〒566-8501 大阪府摂津市正雀1-4-1
電話番号 06-6381-6548
FAX 06-6319-1505
ホームページアドレス <https://www.kun-ei.ac.jp/>

（2）建学の精神

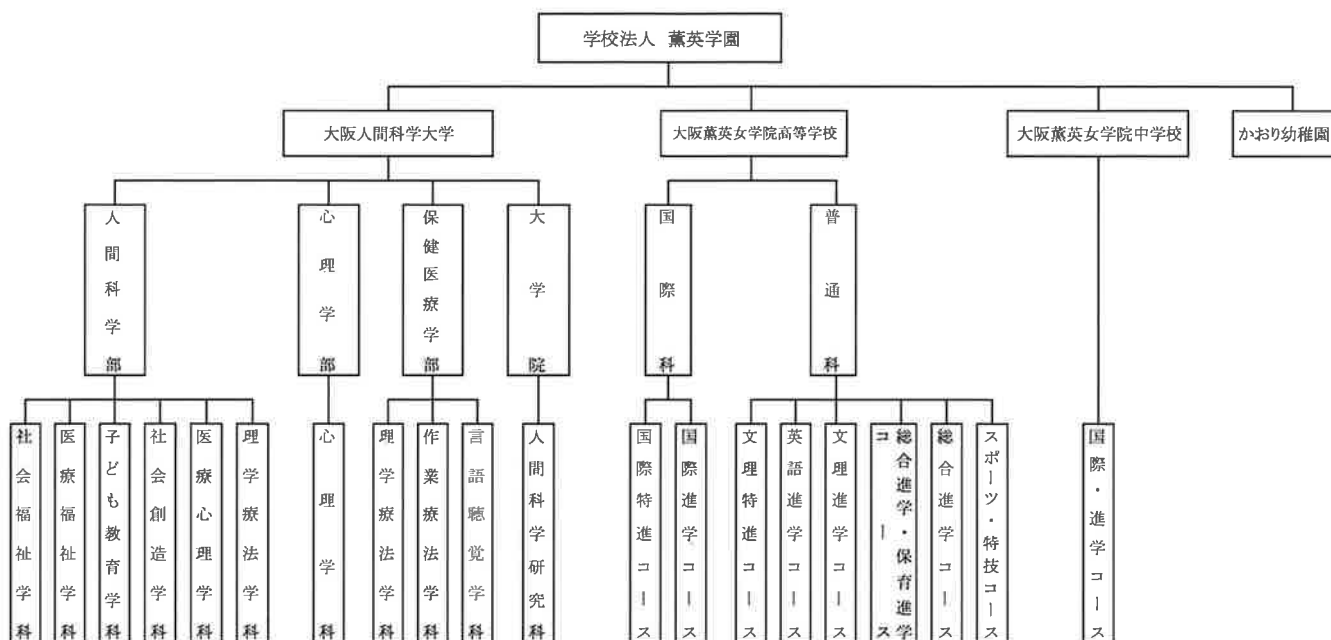
本学園は、昭和6年（1931年）に創設された教育機関であり、令和7年6月に創立94周年を迎えました。この間、一貫して堅持してきた建学の精神は「敬・信・愛」です。

すなわち「人生は、衣・食・住が充たされただけでは幸福ではない。他より尊敬され、信頼され、愛されることが真の幸福である。互いに相敬し、相信じ、相愛し、明るき人生観に生きなければならない。」という建学の精神によって築かれる人間関係は、思想・信条や価値観の異なる人間との共生、環境との共生という、まさに21世紀に求められているテーマである「共生」を追求する根幹をなすものと考えています。

（3）学校法人の沿革

昭和6(1931)年6月	私塾薫英女子学院創設（大阪市東淀川区木川）
昭和8(1933)年7月	各種学校令による私立薫英女子学院設立認可
昭和13(1938)年7月	薫英女学校（修業年限4年）に名称変更
昭和16(1941)年3月	財団法人 薫英学園設立並びに薫英高等女学校（修業年限5年）設置認可
昭和18(1943)年4月	全校生徒正雀学舎に移転完了（大阪府摂津市正雀）
昭和22(1947)年3月	薫英中学校設置認可
昭和23(1948)年3月	学制改革による薫英高等学校設置認可
昭和26(1951)年3月	財団法人薫英学園を学校法人に組織変更認可
昭和40(1965)年9月	薫英中学校廃止認可
平成2(1990)年4月	薫英高等学校普通科に国際コースを設置
平成8(1996)年4月	薫英高等学校に国際科開設
平成9(1997)年3月	大阪薫英女学院中学校設置認可
平成9(1997)年4月	大阪薫英女学院中学校開設
	薫英高等学校を大阪薫英女学院高等学校に名称変更認可
	大阪薫英女学院高等学校普通科に文理コース・総合コースを設置

(4) 設置する学校・学部・学科等【学園組織】(令和7年5月1日現在)



所在地

大阪薫英女学院高等学校 (昭和16年4月開設)

〒566-8501 摂津市正雀1-4-1 TEL06-6381-5381

大阪薫英女学院中学校 (平成9年4月開設)

〒566-8501 摂津市正雀1-4-1 TEL06-6381-5381

(5) 学生数の状況

(令和7年5月1日現在)

設置校	入学定員	入学者数	収容定員	現員
大阪薫英女学院高等学校	440	160	1,320	505
大阪薫英女学院中学校	120	33	360	103

(6) 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

設置校	令和5年度	令和6年度	令和7年度
大阪薫英女学院高等学校	0.39	0.40	0.38
大阪薫英女学院中学校	0.24	0.30	0.29

(7) 役員・評議員の概要 (令和7年5月1日現在)

形態	定員	常勤	非常勤
理事	9	4	4 (※)
評議員	19	8	10
監事	2	0	2

(※) 非常勤の理事は
全員が外部理事

(8) 会計監査人の概要

- ・定員数：1名 公認会計士 (令和7年5月28日就任)

(9) 理事選任機関の概要

- ・理事選任機関：理事会

(10) 教職員の概要

(令和7年5月1日現在)

設 置 校	教員数		職員数		計
	専任	非常勤	専任	パート タイマー	
大阪薫英女学院高等学校	45	16	10	9	80
大阪薫英女学院中学校	11	4	2	1	18

II 中期的な計画及び事業計画の達成状況

[高等学校・中学校関係]

1 教育活動の充実

(1) 学科、コース

【高等学校】

学 科	コ ー ス
普通科	文理特進、英語進学、文理進学、総合進学・保育進学、総合進学、スポーツ・特技
国際科	国際特進、国際進学

【中学校】

学 科	コ ー ス
—————	国際・進学

2 海外体験 (長期留学・短期留学・短期研修・修学旅行)

中学生は留学する全員がニュージーランドで、国際科の高校生は希望によりニュージーランドもしくはカナダでの1年間留学を修了することができました。

また、普通科英語進学コースの短期留学、中学生の短期留学についてもニュージーランドで実施しました。短期研修は7月中旬から2週間イギリスにおいて実施し、中学3年生と高校1年生の希望者が参加しました。

高校2年生の海外修学旅行に関しては、7月実施の普通科の文理特進、英語進学、文理進学、総合進学コース国際科の中高一貫生はオーストラリアで実施しました。スポーツ・特技コースに関しても昨年に続きシンガポールで3月に実施しました。

世界的な物価上昇や急激な円安など経済状況が厳しい中でも工夫を重ね、安心安全な海外体験を実施することができました。

(1) 長期留学

海外長期留学は、ニュージーランドとカナダにおいて高校生及び中学生が1年間留学し、英語力の習得はもとより、国際感覚の醸成や国際理解を深め、人間形成に努めました。1988年にカナダ留学から始まった海外長期留学は、今回で38回目、これまで約4,800名の生徒が留学に参加しています。

(2) 短期留学

普通科英語進学コースの短期留学(約5週間)もニュージーランドにて7月中旬～8月下旬に実施しました。

また、中学生の短期留学(約3か月)では、長期留學生徒とともに1月にニュージーランドに出発し、高校入学式直前に帰国しました。

3 生徒募集

少子化が進み、共学志向が強まる中で、喫緊の課題である生徒確保に向け、保護者・生徒(児童)対象の進学説明会や個別相談会、校内オープンキャンパスなどの開催に加え、学校・塾への訪問を積極的に行うなどの取組みを行いました。

中学校では、これまでに引き続き、中高一貫教育とオリジナルの英語教育、海外体験をアピールしました。また、大手進学塾との連携も進めました。高等学校については、留学制度を中心とする国際的視野の涵養や英語教育及び有名大学への豊富な進学実績という、本校の特色をアピールして定員確保に努めました。

(1) 生徒・保護者対象進学説明会(オープンキャンパス・入試説明会・留学フェアなど)

高等学校：実施回数 11回 参加件数 987件

中学校：実施回数 8回 参加件数 291件

(2) プレテスト

中学校受験希望者を対象に2回実施し、延べ134名が受験しました。

(3) 塾対象学校(入試)説明会

9月に実施し、82塾82名の先生方に参加いただきました。

4 「英検」(実用英語技能検定)の実績

令和7年度、中学校高等学校に在籍する生徒の中で「英検」各級取得者数は、1級4名、準1級41名、2級213名、準2級357名と大きな成果を収めています。特に、1年間留学体験をした国際科の28%が準1級以上合格となりました。なお、高校生が取得できる割合が1%といわれる超難関の1級合格は24年連続を更新しています。

5 進学実績

進学実績は、中高一貫教育の強みを活かしながら、国公立大学や早慶上智・関関同立などの難関私立大学へ多数の合格者を出しています。「薫英放課後学習支援システム（KAS）」なども活用しながら学力向上への取組みを一層進めています。

令和7年度の大学合格実績は延べ287名となり、国公立大学、首都圏難関私立大学、関関同立、産近甲龍をはじめ、外国語系大学等に多数の合格者を出しています。近年、海外大学への進学希望者が増加しており、関連団体との提携も進めています。

6 Kun-ei Kids の実施

Kun-ei Kidsとして、小学校5・6年生を対象に5月から11月にかけて5回にわたり英会話講座を開講し、47名の参加者がありました。参加者は、本校の様子を身近に知ることができるなど、本校受験への大きなきっかけとなっており、募集対策の一環ともなることから引き続き内容の充実に努めました。

また、大阪人間科学大学人間科学部子ども教育学科の学生が、講座の開始時や合間にアクティビティを担当し、学生にとっても良い実習の機会ともなりました。

7 薫英杯女子中学生英語スピーチコンテストの実施

ニュージーランド、カナダの両大使館、大阪府教育委員会などの後援を得て、文化の日に実施しました。当日は、定型暗誦のスタンダードの部と自由暗誦のアドバンスの部の2部門に分かれて、言葉と身体表現をリンクさせた発表で聞いている人の心に残る発表がありました。司会は、高等学校普通科で短期留学を経験した高校2年生が担当しました。

8 その他（クラブ活動実績）

（1）陸上競技部

ア. 陸上競技部は、大阪高等学校駅伝競走大会において優勝し、大阪府の代表として全国高等学校駅伝競走大会に20年連続20回目の出場を果たしました。本大会では準優勝となり、6年連続12回目の入賞を果たしました。

イ. 皇后盃全国都道府県対抗女子駅伝競走大会に、高校生3名と卒業生3名が選手として出場し、優勝となりました。

ウ. 秩父宮賜杯全国高等学校陸上競技選手権大会（全国インターハイ、広島市）の1500mに村井和果（2年）、黒葛原唯夏（3年）が出場しました。全国インターハイは39大会連続の出場となりました。

エ. 第37回選抜女子駅伝北九州大会において、7大会ぶり4回目の優勝を達成しました。

（2）バスケットボール部

ア. 高等学校バスケットボール部は、6月の大阪高等学校総合体育大会バスケットボール大会において優勝、近畿大会で準優勝、8月の全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会（中国インターハイ、岡山市）は3回戦進出となりました。

- イ. 10月のわた SHIGA 輝く国スポ（国民スポーツ大会）において、大阪府代表の少年女子の部に8名が出場、成年女子の部に2名が出場し、いずれも準優勝となりました。
- ウ. 大阪高等学校バスケットボール選手権大会（ウインターカップ予選）に優勝し、12月の全国高等学校バスケットボール選手権大会（ウインターカップ）では、念願の初優勝をかざることができました。
- エ. 6～11月に実施されたU18 日清食品ブロックリーグで優勝し、その後行われたトップリーグとの入れ替え戦でも勝利し、次年度2年ぶりにトップリーグに復帰することとなりました。

(3) ソフトテニス部

- ア. 1月に行われた近畿高校選抜インドア大会に2組のペアが出場しました。

(4) 中学バスケットボール部

- ア. 8月に鹿児島県で行われた全国中学校バスケットボール大会に出場し、予選リーグを戦いました。